

小山町立小山中学校 人権教育研究の概要

平成23年度・24年度

静岡県人権教育研究指定校
小山町人権教育研究指定校

静岡県人権教育研究事業 実施要項

1 目的

あらゆる人権問題の解決を目指し、児童生徒及び教職員の自他の人権を尊重する態度や行動力を高めるための研究を行うとともに、その具現化を図り、成果を広く県内の小・中学校に普及させ、学校教育のいっそうの充実・発展に役立てる。

2 研究主題の設定及び研究の進め方

指定校は、次の点を踏まえて自校の実態に即した研究主題を設定し、実践的な研究を行う。

(1) 学習指導要領の趣旨に基づく実践を進める。

(2) 静岡県教育委員会が示す教育理念や内容を実現する。

(3) 研究の推進に当たっては、次の点に留意する。

ア 学校における人権教育の目標は、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童生徒の育成である。この目標を達成するために、全教育活動を通して人権教育を実施し、それが児童生徒の態度や行動に表れるように努める。

イ 児童生徒や地域の実態に応じた学習指導、とりわけ学ぶ側に立ち、一人一人を生かす授業の実現に努め、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

ウ 人権尊重を基盤とした生徒指導、個に応じた生き方指導の充実を図る。

エ 教職員の共通理解の下に、全教育活動を通して人権尊重の精神を徹底する指導態勢を確立し確かな教育計画に従って着実な実践研究を進める。

オ 家庭や地域との連携を図ることにより、人権教育の効果を高めるよう努める。

〈小山中学校 人権教育 研究主題〉

自分のよさを知り、仲間とともに伸びようとする生徒の育成

～ 関わり合い認め合う活動を通して、誇らしい自己と共感的な人間関係を育てる～

小山中 人権教育研究の基本スタンス

- ① 現在まで実践してきた、さまざまな学校教育活動を「人権教育の視点」で見つめ直し、重点化する。
- ② 「授業（教科、学活、道徳）の場を通した人権教育」に力を入れ、授業を通しての仲間づくり、学習集団づくりを推進する。
- ③ 生徒が日常生活の中で「人権」をどのように意識するかを小山中学校独自のキーワード（誇り・誇高）で表し、定着を図る。

研究主題設定の理由

校訓 **自主自律**

学校教育目標

『志を持ち、学び合い、認め合う』生徒の育成

重点目標

『誇り高き小山中』生徒の育成 キーワード 「誇り」

志を持つ

自らの言動に「誇り」を持ち、将来への夢や希望を抱く生徒を育成する

学び合う

「関わり合い認め合う」活動を取り入れた、学び合いの授業を展開することによって、学習意欲を高め、課題を追究する力を磨く

認め合う

学校生活の様々な場面で、積極的に他者と関わり、互いのよさを認め合える人間関係を確立する

学校教育目標3つの柱「志を持ち、学び合い、認め合う」には、校訓「自主自律」の精神の具現化を目指す小山中の教育の姿が凝縮されている。それは言い換えるならば、「一人一人の生徒が、自分も他人も心から大切にできる」学校をつくることである。

自分の判断や考えで行動できる自主性や自律性を身に付けるためには、まず生徒一人一人が、自分にとって価値のあるものを見つけ、それに向かって目標や志を持って挑戦していくことが大切である。そして、その努力や頑張りが他者から認められることによって、そこには大きな「達成感」が生まれるだろう。生徒には、目標達成の喜びや志が成就する充実感を数多く味わってほしい。その積み重ねが、生徒の自己肯定感を高め、「誇り」を育んでいくはずである。そして、誇れる自分・仲間・家族・地域の存在を、心から大切にしようとする気持ちは、よりよく生きるための「人権感覚」を身に付けた人づくりにもつながっていくに違いない。

これは、静岡県が目指す人権教育の基本的な考え方とも合致している。

「自他の人権を尊重する態度や行動力の育成」

そこで、このことを踏まえて、人権教育の視点（自尊感情・人権感覚・共感的な人間関係の向上）でとらえた小山中の生徒の実態について、生徒や保護者、地域の願いを大切に考えながら、全職員で話し合った。さらに、それをもとに理想とする生徒像を描き、教師の願いを言葉にまとめた。

- ・自分に自信を持ち、主体的に物事に関わってほしい。
- ・自分の考えを堂々と表現し、積極的に人と関わってほしい。
- ・他人から認められることで、自分のよさを誇りに感じてほしい。

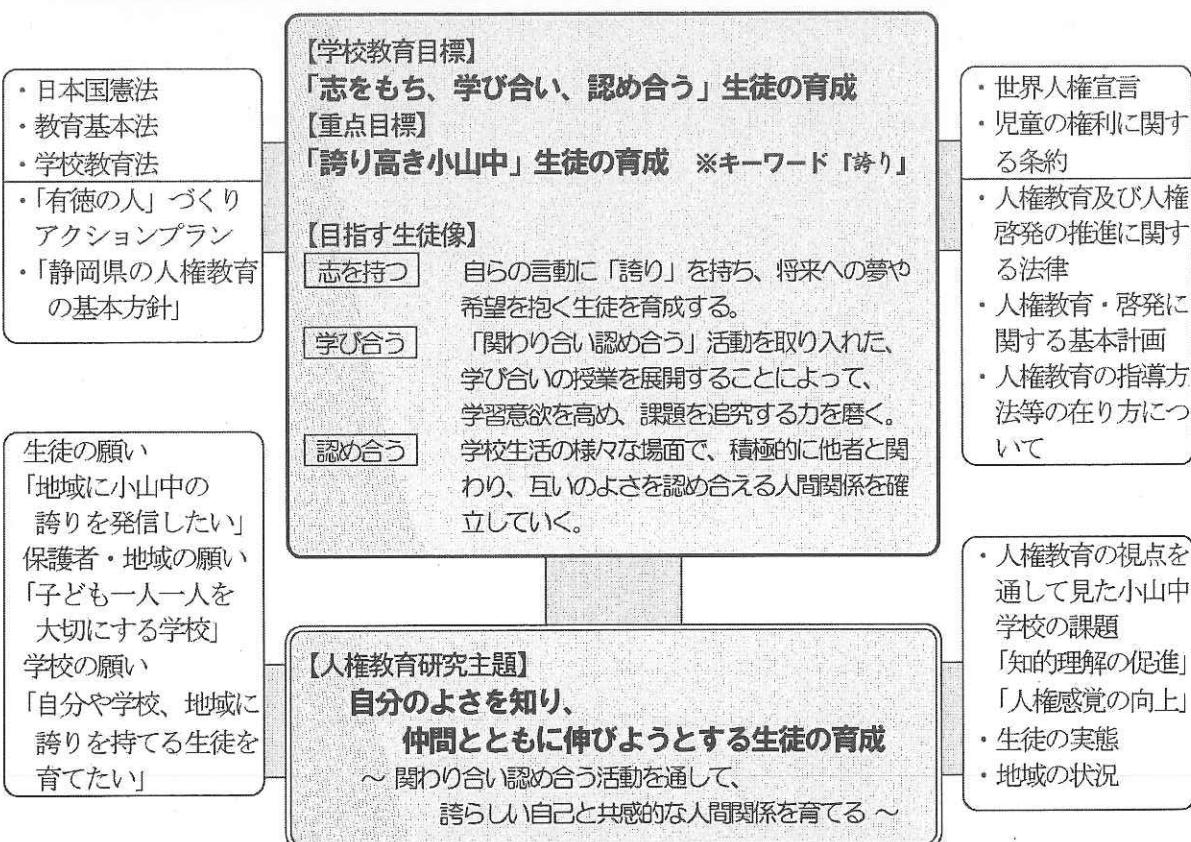
自分のよさを知ろうとする生徒

- ・穏やかな雰囲気で寄り添える仲間意識の高さを集団のよさとして伸ばしていきたい。
- ・人を支え、人の励ましとなる存在になってほしい。
- ・関わり合い認め合うことで学ぶ楽しさや成長する喜びを感じてほしい。

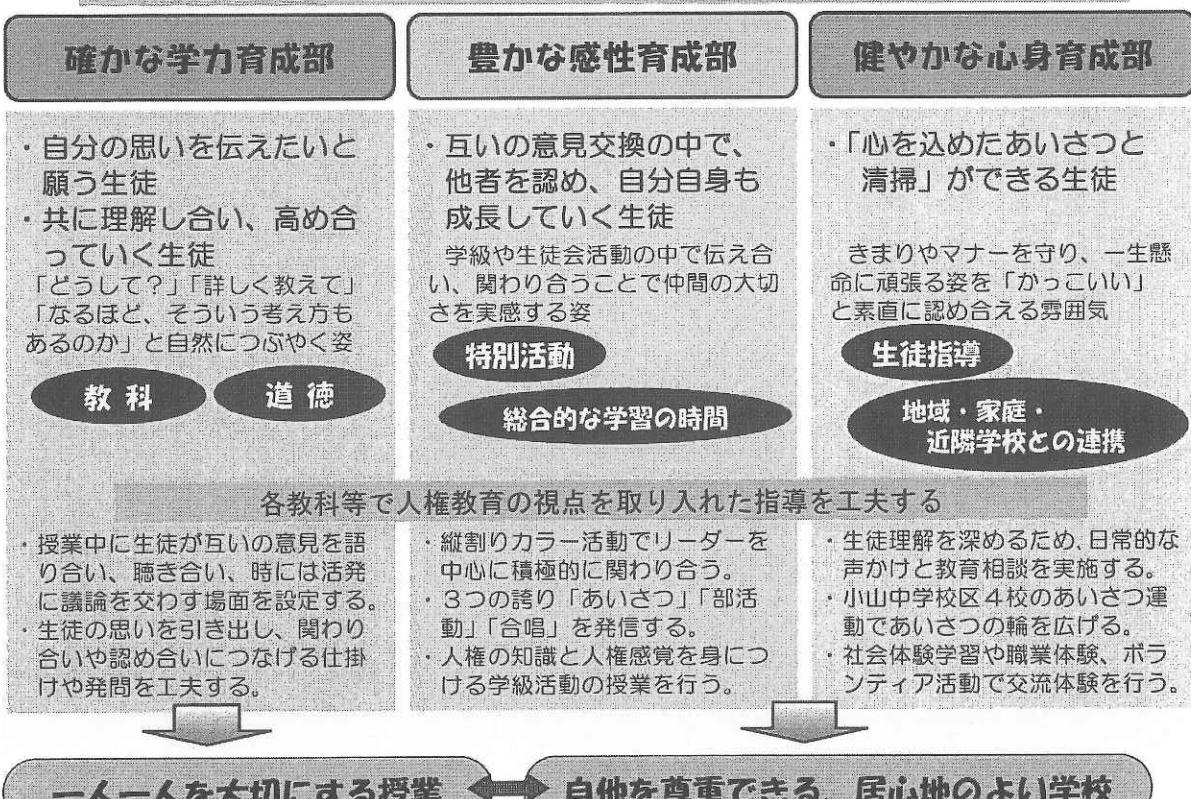
仲間とともに伸びようとする生徒

以上のような願いと教育構想から、本校の人権教育研究主題「自分のよさを知り、仲間とともに伸びようとする生徒の育成」を設定した。

研究構想Ⅰ《人権教育全体計画》



研究主題の具現化を図るために、3つの育成部で「目指す生徒の姿」に迫る



研究構想Ⅱ 《研究仮説1 授業改善》

研究仮説 1

生徒が自分の考えを持って進んで関わり合う活動を、意図的に取り入れた授業を行うことによって、自分の考え方や価値観を安心して伝え合える人間関係が生まれ、一人一人が楽しみながら主体的に学ぶ力が育つだろう。



研究仮説1は、人権教育の視点でこれまでの授業を見直し、改善していくためのものである。そこで、仮説にある本校の目指す授業が、どの教室でも行われているようにするために、重点の**共有**を図り、「授業づくり」を第一に人権教育研究を推進することとした。

共有のポイント

- ① 生徒が「どうしてだろう?」「どうすればいい?」などと思わずつぶやき、課題を解決したいという思いが高まる。
- ② 課題を解決するために、「他の友達ともっと関わりたい」「意見を伝え合いたい」「同じ考え方の人と共感したり、違う考え方の人と話し合ったりしたい」という欲求が高まる。
- ③ 高まった意欲や関心を紡ぎ合わせながら、生徒が互いの考えを確かめ合い認め合うことで課題を追究していく「生徒主体の学び合い」がある。
- ④ 構想の手順として 授業のねらい = 「本時の目標」を明確にする。
 - 単元構想に基づく「付けたい力」の具体像を描き、
 - 教師の見取りを生かした「生徒の学びの実態」をとらえ、
 - それを具体像に導くための「効果的な手立て」を工夫する。

生徒主体の学び合いを生み出し、**一人一人を大切にする授業**をつくろう

ね ら い	教材研究	<ul style="list-style-type: none">・この教材や題材を用いて、<u>本時の授業</u>で、生徒が「付けたい力」はどんな力か その教科ならではの「関心・意欲」 基礎基本となる「知識・技能」課題解決のための「読み解き力・思考力・判断力・表現力」など
	発問	<ul style="list-style-type: none">・生徒が、興味を持って見つめた事象の中に課題があることに気づき、その問い合わせに対する興味や関心が芽生える。→ 思いつきを自由に発言できる雰囲気づくり・一人一人の生徒が迷ったり思案したりする中で多様な発想が生まれ、何とかして解決したいと思うようになる。→ 生徒の発想を引き出す教師の発問の工夫
関 わ り 合 い 認 め 合 う	課題把握	<ul style="list-style-type: none">・いくつか考えられる答えの中で自分なりに判断し、自分の意見を持つ。・自分と違う見方や考え方の人がいることを知り、その主張と根拠を聴きたくなる。・仲間の言いたいことの意味を理解する。(自分の意見を理解してもらう)・自分と同じ考え方の人の意見を聴き、自分の筋道が確かになる。解決したい(できるようにしたい、証明したい)課題が明らかになる。
	追究理解	<ul style="list-style-type: none">・仲間と議論することで、どうするのが最も目的にかなっているかが追究できる。・異なる主張があるからこそ、視野が広がり、納得する答えに近づける。・学級の仲間が見つけ出した答えを全員で共有し、さらに核心に迫っていく。
実感		<ul style="list-style-type: none">・出された答えを、生徒と教師が整理し、意味(価値)づける。・一人一人が参加して出した答えだからこそ、「よくわかる」「応用したくなる」。

研究構想Ⅲ 《研究仮説2 環境づくり》

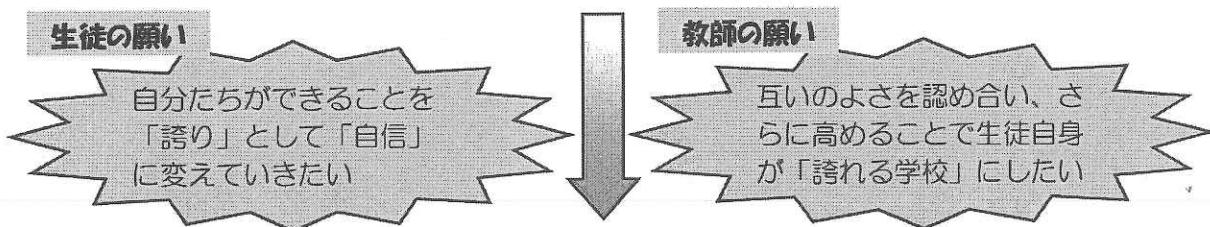
研究仮説 2

日常生活のさまざまな場面で、生徒と教師及び生徒相互が思いを通わせ、自分たちにとっての「誇り」を体現する関わり合いを生み出すことによって、自分も他人も大切にしながら共に成長しようとする生徒が育つだろう。

小山中学校区には、地域や家庭に支えられた温かい人間関係を育む土壌がある。そこで、自分たちが「誇り」とする「あいさつ」「合唱」「部活動」を中心に、生徒全員が関わり合いながら、校内外の様々な行事や活動を充実させていく。また、更にそれを地域へと発信していく。それが「誇り」を体現することになる。

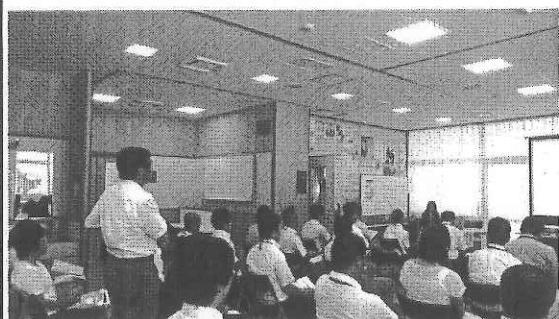
小山中の成長

仲間に真剣に語りかけることのできるリーダーが育っている
… 学年の垣根を越えて、討論やゲームに熱中する良好な関係がある
日常の中に、労をいとわず朝に夕に勤労する姿が息づいている



誇りを「自信」にして、**自他を尊重できる、居心地のよい学校** をつくろう

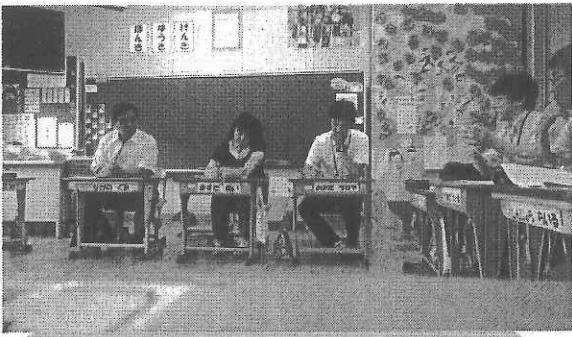
町内の小中学校との連携・交流によって広がる研修の輪



小山町内中学校3校による「中中連携事業」では、「頼もしい先生の育成」を目指して教職員研修を推進している。その一環として、平成24年7月実施の「3校合同研修会」において、本校の人権教育研究発表の公開授業についての検討会を行った。また、小山中学校区の小学校3校との交流研修では小中連携を充実させるための課題について協議した。



町内3校合同研修会（須走中にて授業検討会）



中学校区4校交流研修（足柄小にて課題研修）

研究の流れ（1） 平成23年度

日 稲	校内研修 支援研修 地区研修会	研修の内容
4月	1日 職員会議 18日 第1回全体研修 22日 研修推進委員会 25日 人間関係づくりプログラム（試行） 研修部会	・研修計画及び内容の提案と検討 ・指導案形式について ・人権教育研究の主題設定について ・アンケートを学級で実施 ・アンケートのデータ集計結果の分析
	6日 東部支援班指導主事訪問 9日 第2回全体研修 12日 小山中学校区 小・中連携交流研修会 … 本校1年生授業公開 研修部会	・指定研究に関する指導、打合せ ・データ分析結果をもとに研究主題検討
	3日 第3回全体研修 10日 東部支援班第1回支援研修 … 中心授業（2年英語 大庭幸乃教諭）全体公開授業	・中心授業及び公開授業事前研修
	21日 御殿場市小山町授業研修会（1年学級活動 勝又規真教諭）… 分科会で事後研修会 27日 第5回全体研修	・人権教育推進の方向性と課題について ・御殿場小山授業研修会の反省とまとめ
7月	6日 管理主事訪問 … 全体公開授業 19日 第6回全体研修 前期 学校評価アンケート実施	・地区教研発表に向けて ・生徒、保護者、教職員対象で行う
	3日 第7回全体研修（夏期研修会 終日） 5日 駿東地区教育研究集会 … 人権教育中間発表 29日 職員会議	・育成部ごとに研究実践の計画作成 ・参加体験型学習 実践研修
9月	13日 第8回全体研修	・参加体験型学習 授業検討会
10月	5日 あざれあデータDV防止出前セミナー【講師:NPO法人SEAN 遠矢 家永子 氏】 研修部会 25日 東部支援班第2回支援研修 … 中心授業（2年 加藤佐和子教諭） 参加体験型人権学習の授業を全学級で公開	・中心授業及び公開授業 打合せ
	第9回全体研修	・小山中の人権教育の重点
	8日 駿東地区教科等指導リーダー授業研修会 … 各教科・領域授業会場にて研修会に参加 9日 島田市立大津小学校研究発表会 視察 16日 新潟県上越市立大潟中学校発表会 視察 21日 長野県茅野市立永明中学校発表会 視察 25日 埼玉県熊谷市立奈良中学校発表会 視察 28日 校内授業研究会（3年道德 吉岡正智教諭）	・研究指定校の発表会に出席 ・各学校の実践を参考に本校の研究に生かす。
	第10回全体研修	・道徳の授業づくりについての研修
12月	7日 第11回全体研修 後期 学校評価アンケート実施	・県外視察研修の報告と検証 ・生徒、保護者、教職員対象で行う
1月	20日 人権・キャリア教育講演会【講師:エリクソン・ジャバーン 小林 隆照 氏】 東部支援班第3回支援研修 … 中心授業1（1年国語 豊田博文教諭） 2（2年参加体験型学習 稲葉啓一郎教諭） 第12回全体研修	・人権教育のあり方のまとめ
	学校評価会議	・研究成果及び課題来年度の方向性検討
	15日 第13回全体研修 23日 第14回全体研修 学校評価会議	・来年度の研究構想 ・研究構想検討 チーム会議 ・来年度の研究の方向性と計画を決定

研究の流れ (2) 平成24年度

日 稲	校内研修 支援研修 地区研修会	研修の内容
4月	2日 職員会議 研修部会	・研究構想(重点と仮説)の提案と検討
	9日 東部支援班指導主事訪問	・指定研究に関する指導、打合せ
	13日 第1回全体研修	・研究推進の方針と組織等の確認
	16日 第2回全体研修	・支援研修と研究発表会の計画
5月	2日 第3回全体研修	・支援研修①②公開授業の指導案検討会
	8日 小山中学校区 小・中連携交流研修会 … 本校1年生授業公開 交流研修会	
	14日 第4回全体研修	・支援研修①の授業検討会
	28日 東部支援班第1回支援研修 … 中心授業(3年英語／数学) 公開授業(1年技術・家庭／2年国語／社会／道徳)	
6月	第5回全体研修	・中心授業グループ協議
	13日 第6回全体研修	・支援研②授業検討会
	19日 御殿場市小山町授業研修会 … 各教科授業会場にて研修会に参加	
	21日 第7回全体研修	・支援研②授業研究の視点を確認
	27日 東部支援班第2回支援研修 … 中心授業(1年国語／1年道徳) 公開授業(1年英語／学活／2年数学／3年社会)	
7月	第8回全体研修	・中心授業グループ協議
	29日 管理主事訪問 … 全体公開授業	
	2日 小山中学校区 小・中連携交流研修会 … 足柄小学校公開授業参観 交流研修会	
8月	20日 第9回全体研修 前期 学校評価アンケート実施	・「研究のまとめ」作成計画の確認 ・生徒、保護者、教職員対象で行う
	小山町内3校合同研修会 … 須走中にて(講演／小山中人権教育の授業づくり研修)	
	1日 第10回全体研修(終日)	・育成部ごとに「研究のまとめ」作成
	3日 駿東地区教育研究集会 … 各分科会発表会へ参加	
9月	8日 第11回全体研修(半日)	・「研究のまとめ」原稿点検
	20日 第12回全体研修(終日) 研修部会	・研究発表授業の素案検討
	28日 職員会議	・研究発表会までの計画の確認
	3日 1年生 絵本を活用した心の健康教育 [講師:夢ら丘 実果 氏 吉沢 誠 氏]	
10月	12日 第13回全体研修	・支援研③授業検討会
	19日 東部支援班第3回支援研修 … 中心授業(2年学級活動) 公開授業(1年美術／2年保健／3年国語／理科)	
	24日 第14回全体研修 研究発表会準備打合せ会	・学級活動視点別グループ協議
	第15回全体研修	・学級活動の授業づくり研修
11月	3日 第16回全体研修	・研究発表授業の指導案検討会
	10日 第17回全体研修	・研究発表授業検討会
	24日 第18回全体研修	・研究発表リハーサル
	29日 第19回全体研修	・発表会場準備 環境整備
12月	2日 静岡県教育委員会・小山町教育委員会指定 人権教育研究発表会 公開授業(1年国語／道徳／2年学級活動／3年数学／英語)	
	6日 駿東地区教科等指導リーダー授業研修会 … 各教科・領域授業会場にて研修会に参加	
	14日 第20回全体研修	・アンケート集約 発表会の反省
	17日 第21回全体研修 後期 学校評価アンケート実施	・今後のの人権教育推進について ・生徒、保護者、教職員対象で行う
1月	16日 学校評価会議	・次年度の研修について
2月	静岡県人権教育指導者研修会 … 研究発表	
3月	学校評価会議	・来年度の教育課程と研修について

研究の成果と目指す方向

成 果 1

生徒の成長の姿から

(1) 日々の授業を中心とした、様々な関わり合いを通して 共感的な人間関係が深まった

落ち着いた態度や行動が仲間との親和を生み出している

- ・常に落ち着いて、冷静に行動しようとする。<人権感覚の基本>
- ・周囲に気を配り、穏やかに振る舞う。
- ・仲間を信じて、迅速でまとまりのある集団行動をとることができる。

授業・行事・部活動などの場にいつも笑顔がある

- ・授業中や行事、休み時間などいろいろな場で、笑顔を浮かべた仲間の輪ができる。
- ・笑顔が安心した雰囲気を生み出している。

素直に受け止め、分かり合おうとする人間関係がある

- ・他者からの助言や忠告に対して、素直に耳を傾け、自己を高めていこうとする。
- ・いろいろな考え方があることを認め、話合いの中で互いに思いを伝え合える。
- ・たとえ困難な課題であっても、たやすく投げ出したり、あきらめたりせずに最後まで協力して解決しようとする。

他者と協力し、苦労や喜びを共有しようとする姿がある

- ・学年の枠を越えた縦割りカラーなど、全校が力を合わせ、感動を共有することに価値があるという意識が、生徒全体に浸透している。
- ・男女が気兼ねなく語り合ったり、笑い合ったりする姿があふれている。
- ・学級や学校の仲間、家庭や地域を大切にしようとする言動が広がってきている。

(2) 仲間と共に高め合ってきた「誇り」によって 自他を尊重する心 が育ってきた

話を真剣に聴く姿勢

- ・どんなときも、友達の発言や教師の説明に対して、真剣な目で、集中して聴こうとする。
- ・「真剣に・一生懸命に」取り組む姿を、かっこいいと認めていく雰囲気がある。

「誇り」の継承の第一歩を踏み出した

- ・「誇れる自分、誇れる仲間、誇れる学校でありたい」という思いで、3年生が学校をリードしてきた。「誇り」というキーワードでつながり、高め合っていこうとする気運が学校全体にみなぎっている。

「誇り」が「恥の文化」を育みつつある

- ・生徒の「誇り」の一つである「あいさつ」は、学校を訪ねてこられたお客様や地域の方々から、多くのお褒めの言葉をいただいている。小山町の中学生ボランティアに積極的に参加したり、職場体験や幼稚園実習で一生懸命に活動したりする姿からは、「小山中生徒として恥ずかしくない態度で堂々と行動したい」という意識が感じられる。
- ・生徒は、「どこに出ても恥ずかしくない身なり」も大切にしている。制服や体育着など服装を整えることで、他者を不快にさせないようにする意識が強い。
- ・生徒の作文や教育相談での言葉からは、人を嫌な思いにさせるのではなく、逆に気持ちよくさせる言動を心がけたいという声が多く寄せられる。「いじめは恥」と言える集団になってきた。

成 果 2 授業改善の推進と教職員の意識の向上

(1) 人権教育の視点で授業改善を進めることによって

生徒が「伝え合う楽しさ」と「認め合う喜び」を感じるようになった

「関わり合い認め合う」授業が、学ぶ楽しさを向上させている

- ・話合いや小集団活動が活発に行われるようになり、生徒が「授業が楽しい」「やりがいがある」と強く感じるようになった。
- ・仲間と向き合って、意見をしっかりと聴こうとする姿勢は、他者を尊重する気持ちだけでなく、自己肯定感や自尊感情も生み出している。
- ・「授業が分かった」「伝ええると楽しい」「もっと聴きたい」といった多様な思いがふくらみ、生徒が学ぶことに対して期待感や自信を感じる場面が増えてきた。

教師が生徒一人一人のよさを丁寧に見取り、授業づくりに生かしている

- ・授業中はもちろん、日常生活のあらゆる場面で見取った生徒のよさを、日々の授業に生かそうとする教師の意識が向上した。
- ・生徒の興味や関心を引き出し、意欲を生み出すにはどうしたらよいかを常に考え、導入の仕掛けや発問を工夫するようになった。

(2) 人権尊重の視点に立つことによって

教師の意識が変わり、研修の質が向上した

生徒のために自己を磨き、高め合う教師の輪が広がっている

- ・校内では、東部支援班人権教育支援研修や校内授業研究会で、授業づくりに対する研修を精力的に進めてきた。授業づくりのための「プロジェクトチーム」は、異なる教科の教員がチームを組んで、指導案検討や授業後の研究協議を進める。研修の成果や課題は、翌日の「校長だより」や「研究通信」によって返され、その後の授業づくりにつなげられる。PDCAサイクルに基づいた研修体制によって、教師もまた、常に成長することを目指している。
- ・小山中学校区4校交流研修に加えて、小山町内の「中中連携事業計画」によって、研修の輪が更に広がっている。町教委の指導主事や授業アドバイザーが橋渡しをしてくれることで、他校の研修や授業研究がとても身近になり、地域が一体となって子どもたちを育していく体制が着実に整いつつある。

目指す方向

自他を心から尊重する生徒の育成を目指して

(1) 人権教育の視点に立った授業改善の道は、まだ始まったばかりである。

すべての生徒が学ぶ喜びを味わい、一人一人に確かな学力が定着する授業づくりを進めていく

目指す生徒の姿

話合いや集団活動の場で「学び合い」を深めながら、多様な考えを認め合ったり様々な手立てを提案し合ったりして、課題を深く追究している。

生徒一人一人が、自分の思いを自分なりの言葉にして積極的に伝えている。

質問したり意見を述べたりすることが苦手な生徒に対して、「どう思う?」「○○さんもそう思ったんだね」「私も同じだよ」などと意見をつないでいくことで、みんなが積極的に関わりながら、理解を深めようとする。

教師の姿

全教職員が、生徒一人一人の姿をいろいろな場面で見取り、それを伝え合うことで、どの教科でも生き生きとした笑顔が輝く授業していく。異なる教科や学年相互の連携を図る。校内研修によって、生徒を見取る力を磨き合う。

生徒が主体的に学び合う授業をつくるために、「教材研究の力」「単元構想の力」「生徒の思考をくみ取る力」を自己研鑽するとともに、校内研修によって磨き合う。人権尊重の視点を持って、生徒の自信につながる授業をつくっていく。

(2) 自他共にかけがえのない存在であることを大切に思い、人権感覚豊かな学校をつくる

目指す生徒の姿

小山中の「誇り」を、自分たちにとって意味のあるものとして、継承していく。同時に、地域や家庭への感謝を込めて、自分たちの学校のよさを発信していく。

他者と理解し合いながら、よりよい関係をつくっていくための「豊かな言葉」を意識し、身に付けていく。

教師の姿

体験を通して、人権を尊重する言葉や行動のすばらしさを学べるように工夫する。

自分や仲間を大切に思える環境づくりに努める。生徒の前で「誇り」を熱く語り、人権感覚を磨く姿勢を教師自らが示す。